



『トクシマ・アンツアイガー』

第2巻

第9号

徳島 1915年11月21日

死者の慰霊日

(1914年の死者慰霊日の西部戦線での
戦場礼拝におけるミュンヒ師団牧師の説教から)

「合葬墓からある叫びが次のように響いている：我が愛する戦友たちよ！我々の苦悩、我々の痛みを忘れないで欲しい！偉大な民族の使徒はかつて信奉者たちに、十字架に掛けられた者への誇り高い愛を示して叫ばれた。私は主の痛みを我が肉体に耐え忍ぶと。我々の民族の中でな何か倫理的に真面目なことを守ったものは、この戦争の痛みと悩みを生涯意識の中に持ち続けるであろう。我々の解放と勝利の代価は、国民が支払った最も高価で貴重なものであった。それは若者たちの血だ！我々が若者たちを埋葬する様子を眺めに来て欲しい！彼らのために、貧しい棺など決して与えることは出来ない。我々は彼らをゲルマン人のように肩に担いで、山々

を越えて故郷に運ぶことは出来ない。しかし我が愛する兄弟たちよ！私は外国のマイスターによって仕上げられた棺より貴重な棺を知っている。それはドイツ人の心の棺だ！その中へ深く、隠して我々の尊い死者を寝かせてあげよう。死者を我々は郷里ドイツの故里へ連れて行こう。そしていつか、— 我々ドイツの事柄の守護神である神よ、加護をたれ給え — 平和と帝国の新たな興隆のために我々はどれほど犠牲を払ったのかを、ある世代が、我々の息子たちや娘たちや妻たちがもはや知らない時代がやって来るなら、だらだらした享樂的生活のなかで果実だけを楽しむ時代がやって来るなら、神経を消耗し墮落させる倫理や外国の神々に熱中し始める時代がやって来るなら、その場合には、我が愛する兄弟たちよ、今日この共同墓地で嘆き悲しんでいる我々にとって、棺を開き、ただ楽しんでいる国民に我々の死者と死者たちの傷と死者たちの最後の時間を示すときが来たのだ、父たちよ、斃^{たお}れた息子たちを示すときが来たのだ。その時には斃れた者の精神は、戦争の傷をもはやその魂に担うことのない、自身の民族に対する最も重たい戦いを感じるかもしれない。

かくして我々の死者が問題となる今日の日、根底においてほとぼしる生命の日、新たな希望と力に満ち溢れた任務の日である。我々の敵にとって墓は巨大な告発で、我々にとっては未来への聖なる示唆である。彼らは嵐の種を蒔いて、また嵐を刈り取るであろう。ちっぽけな動機に操られ、また些細な利己的なグループに導かれて、彼らは肉体の上に種を蒔いて、破滅を刈り取るだろう。我々は神の前でこう誓うことが出来る。我々は正義と平和の精神の種を蒔いたと。戦争は我々にとって、一致団結して蘇えり、その最も神聖な顔に悲しみを湛え、抵抗へと強いられた民族の記念碑的に精神的な事柄である。この民族はしかしまた、正義と平和の精神によって永遠の生命を刈り取るであろう。アーメン」

チンタオにおける戦没者たちの墓

チンタオ包囲の間、戦闘に斃れたり病院で亡くなったりした者たちは、先ずはその度毎に死に襲われた場所のすぐ近くに埋葬された。先の戦闘で斃れた者たちはすべて、11月9日に総督並びに全てのドイツ人が立ち会う中で、教会墓地の共同墓地に埋葬されたが、その際当時のヴィンター上級牧師が感動的な講話を行った。この一年が過ぎてゆく中で、やがて徐々にあちらこちらに埋葬されていた者たちが棺に納められ、同じように教会の墓地に移され、最近、共同墓地の向かいに一連の個人墓が移されている。我々が知る限りこれらの埋葬費用は、純粋にドイツの事業であるチンタオ義捐基金によって賄われた。最後の戦没者の遺骨が教会の墓地に移された9月末、厳かな式典が墓の前で挙行された。その際ヴィルヘルム博士とフォスキャンプの両牧師は心に深く染みる言葉を語った。絶えることなく墓を飾る花は、まだチンタオに留まっているドイツ婦人たちが心がけているもので、今日おそらく彼女たちの献身的な行為には、東アジアの全ドイツ人の感謝が捧げられている。ドイツのために斃れた者たちの墓は、我々全員にとって神聖である。墓石と記念碑の建立は今日なお思い浮かべることが出来ない。戦争が終わって初めて、間近にそこへ歩を進めることが出来るだろう。さしあたり我々皆が心安んじることが出来るのは、忘れることの出来ないチンタオ戦士たちが最後に安らぐ場所を、細やかな婦人たちが心がけて大切に整備してくれていることだ。

『華徳日報』（中国ドイツ語新聞）より

日本の格闘技

ラムダダーラムダダ、という単調な太鼓の音でここ二、三日我々は目を覚まされ、朝の最後の甘いまどろみを奪われている。そして更に一日

中夕方までそんな具合である。対岸の川岸の櫓の上に一人の男が座って、辛抱強く太鼓を叩くが、それはもっと良いことに役立つのではなかろうか。我々はもうとっくにその男を呪っているが、親愛なる徳島人たちは、太鼓の音を耳にして喜んでい。彼らの東洋的な神経はまだ過敏にはなっていない。待ち焦がれた訪問者である力士が来たことを聞いて喜んでいからである。残念なことには彼らの競技場は周囲に幕が下ろされ、上方には更に大きな幌が張り巡らされて、我々には彼らの競技を眼にすることが出来ない。ただ時折我々は力士の一人が土俵の中央に立って、驚きの眼で眺める観衆の前で見事な四股を披露するのが見えるだけだ。

日本の力士はその技を職業として行っている。その天職はたいてい父から息子へと受け継がれる。彼らはたいてい異常なほどに大きく太って、おまけに脂肪だらけの体つきで、首はずんぐりして短く、額は狭く、精神的な発達を代償にして、過度の肉体的な発達を遂げたことが明らかだ。この体型以外に力士はその髪形でさらに人目を引く。たいていの者たちは髪を後ろから前へと櫛で梳いて、それを硬い平らな髷に結び、その髷を頭頂で固めて、他の部分は女性の髪形のようにしているので、彼らの脂肪に富んだ柔らかい顔を女性と見間違えるかもしれない。

現在、東京、大阪、及び京都に力士たちの一門がある。東京では本場所が1月と6月に10日間開催される。それには勿論一線級の強豪力士たちが参加する。東京での試合が終わるとそれぞれ部屋の一門は、様々な集団を作って今度は国内を旅する。一線級の力士たちは取り分け大都市へ出かける。ここに滞在している集団は格別優れた力士ではない。徳島並びに周辺の力持ちたちは、彼等と力を競いたいと思うであろう。

格闘は土を詰めた16個の米俵で囲まれた円形の場所で行われる。一人の判定者が競技を采配する。始まりに際して判定者は力士の名前を呼び上げる。力士たちは互いに厳かに挨拶を交わし、両手を広げた腕を前方に伸ばす。両者は相手を闘技場から押し出そうと努める。境界として決められた円の外側の地面に触れた者が負けである。突いたり、殴ったりすること

は禁じられている。観衆は格闘を大興奮で眺め、掛金が良いと勝利の喜びは一層高まる。勝者はたちまち試合好きの男女たちからの恩恵に与る。彼らは勝者に花や、お金、高価な物、時にはとても大きな酒樽を贈るが、それは全然不当なことではないのだ。

第 1 回演劇の夕べ

1915 年 11 月 22 日、徳島

ルートヴィヒ・トーマ

『8 月 1 日』

登場人物

ゲシュヴェントウナー	農夫
ゲシュヴェントウネリン	その妻
ボニー	女中
マルチン	下男
ゼップ	
市長	
農民の若者たちと予備役たち	

舞台はとあるドイツの農家で、1914 年の戦争勃発の日である。

開演 8 時

シュミート二等砲兵のデッサンによる美術的に凝ったプログラムは、毎夕ホール入り口で 10 銭にて購入可能。収入は上演によって生じる雑費の補填に振り向けられる。現在の資金は非常にひっばくしているので、この方法で経常費の調整を可能にすることを意図したのだ。何か不承不承寄付をさせられることはない、— 我々が意図することは収容所の裕福な住人を対象にした、さほど多額ではない 10 銭の出費である。

更にお願したいことは、上演前の午後4時から5時までは舞台リハーサルのために、大ホールを空けて欲しい。出し物の成功のためには、このリハーサルはとても重要である。

演劇部

第1回シンフォニー・コンサート

すでに今年4月の第1回コンサートの検討会において、我々はわがオーケストラの優れた成果について誇らしく示すことが出来た。だがしかし先週日曜の、あの第1回シンフォニー・オーケストラの夕べのことを立ち戻って考えると、我々は笑わずにはいられないが、それは新しい80馬力のベント自動車を持ち主が、もしかすると最高のタクシーのことを思い出して微笑むのに似ている。

我々はそれで我々がオーケストラの当時の成果を、後になってからおとしめようとするのではない。その逆である。つまりその時の成果は、今日の成果と全く同じように認められるものであって、もしかするとさらにもっと良かったかもしれないのだ。全くもって何でも始めは特に困難なものだから。

進歩だけを確認しておきたい。そしてこの進歩は実際驚くべきものである！オーケストラの人員が倍増した、というだけではない。貴重な楽譜が驚くほど増え、我々には今や太鼓、コントラバス、ホルン、クラリネット、フルート、そしてリードオルガンまで一台あり、そうしたあらゆる物にもまして我々の音楽家たちは、その間に彼らの不断の努力と真面目な仕事によって大きなことを成し遂げ、オーケストラはよりしっかりとて、かつ理解に満ちた合奏を行った。

ただそれによって彼らは、我々の指揮者ハンゼン一等軍楽兵曹をして、ベートーヴェンの二長調協奏曲のような課題をやってみることを可能にし

た。しかもその夕方が示したように確かなる成果を収めて。

もちろんこの際に忘れてならないことは、ヴァイオリン独奏者としてのハンゼンの卓越した音楽家的特性を、その主要要因として考慮に入れることが出来たことである。かくしてハンゼンは安定してかつ適切なオーケストラ伴奏により、俘虜収容所という制約を遥かに飛び越え、またコンサートホールの明るい光に怖じける必要のない成果を果した。多分彼とオーケストラには、いつの日か更にもっと大勢の聴衆を前にした光り輝く機会が開けるであろう。

ベートーヴェンの後ではハイドンの皇帝四重奏が重きをなすのは困難だった。室内楽をプログラムの始めに置く方が、もしかするともっと良いのではなかろうか？

「夕べ」の最後を締めくくったのはモーツァルトの『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』で、それは愛らしく、耳に心地よく、豊かなメロディーなので、多くの聴衆にはベートーヴェンより理解しやすく、またそれ故より喝采を博した。オーケストラはこの作品の再演においても自らの最も良い面を示した。

この最初のシンフォニー・コンサートの後、オーケストラに期待される今後のコンサートが実に楽しみである。

音楽家たちが名声の上にあぐらをかいたりしないであろうことは、我々には分かっている。仮にもし一天よそうならないように守りたまえ—我々がなお長く囚われの身であり続けるならば、もしかすると我々がこのコンサートに微笑をたたえて回顧する時期さえ来るかもしれない。

1913年までチンタオの海軍膠州砲兵隊第1中隊にいたビーラー海軍中尉は、ダーダネルス海峡沿いのトルコ司令部において、鉄十字第1級並びに第2級勲章を授与された。

第 2 回トランプ競技会

第 2 回ブリッジ及びスカート競技の開催が、以下の要領で計画されている：

下士官向けスカート賞品付競技

兵卒向けスカート賞品付競技

ブリッジ賞品付競技

諸条件は第 1 回と同様である。賞品として今回は以下の品が寄せられている。

ブリッジ： 1 等賞品 生きた雄鶏一羽

スカート： 1 等賞品 それぞれ生きたアヒル一羽

2 等賞品としては、それぞれソーセージ一個

競技の開始はブリッジを含めて今月 25 日木曜日。

スカートは今月 24 日までヴェルナー副曹長殿まで、ブリッジはラーハウス火工副下士殿まで。

初回同様に多くの参加者を期待する。

ミ サ

本日、嬉しいことに我々は再びシラー博士を迎えることになるであろう。ここへ来るための厄介な旅も厭わずに、師が定期的に我々を訪問して下さっていることは疑いもない。我々は常にこの牧師の言葉に喜びをもって耳を傾けてきた。またシラー博士の方も、感謝を籠めて聴き入る信者の前で説教をするのだ、との気持ちであったと我々は思っている。

スポーツ

我々のスポーツ週間が、今回本当にスポーツ月間になってしまいそうに思われる。今週も我々には比較的僅かな成果しかなかった。いずれにせよサッカー試合の件は解決がついて、来週中にもまだ残っている試合に決着が付けられるものと我々は期待している。

第1チームと第2チームの試合には我々はびっくりさせられた。我々はもちろん今回第2チームの勝利を固く信じていた。がしかし結果はこのチームは、我々が期待していた以上に恵まれていた。第2チームはこの日、ほとんど見たことがないほどの絶頂にあったが、今回第1チームについては何も語る事が出来ない。第1チームについて我々はこれまで、もっと優れた連携プレーを見ることに慣れていたが、このチームの年齢の高さが不利になった。試合は終始一貫して活発で面白く、手に汗握る瞬間に満ちていた。ある時はこちらのゴールが、またある時はあちらのゴールが脅かされた。しかし第2チームは常に敵のシュートを阻止することに成功した。その反面で彼ら自身は、前半のハーフタイムで3点、後半のハーフタイムで4点を挙げた。

第2チームと第4チームの試合は、残念ながら中止された。というのは第4チームが試合規則に反したからである。それでこのチームは今回のスポーツ週間は失格になった。

今週木曜に第2チームは第3チームと対戦する。個々の試合を注目して追っていた者には、たとえばはや結果は疑いなく決定的でも、第3チームの第2チームに対する勝利が決して簡単ではなく、実にしたたかに抵抗したことを我々は喜びとすると言わねばならない。色々な局面で、第3チームがゴールを決めるかのように見えた。しかし第2チームが最後の瞬間には阻止したのか、あるいは第3チームのゴールシュートが十分確実ではなかったのかだ。しかし名人も練習次第で、第3チームはすでに多くのことを学んだ。更に肩を持つと、第3チームにもいつか勝利者の賞が待ち受け

る日が来るだろう。試合は前半のハーフタイムに 4 点、後半に 3 点を挙げて 7 対 0 で第 2 チームへの勝利に終わった。

チェス・コーナー

(駒の略語 K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、
S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン)

第 61 問の解答

1. Te4 - e3 任意の手
2. B, T, S, L または
b3 x c4 で詰み

第 62 問の解答

1. Td8 - c8 Ta5 - b5
 2. Tc8 x c5 + Tb5 x c5 (Kc4 x c5)
 3. Tb2 - b4(-c2) 詰み
1. Ta5 - a4
 2. e5 - e6 任意の手
 3. Tb2 - b4 詰み

正解を送ってきたのはヨーゼフ・ヴェーバー。

K.B. 氏の解答は、黒の応手を考慮しなかったので詰むことができない。

第 63 問

白：Kb4, Tc7, Ld1, Sd5, Be2, f3
黒：Kd4, Sbl, Bb5, b6, d2, d6, e6, f4
2 手詰め

第 64 問

白：Kb8, Tg1, La5, h1, Sd4, e3, Bb2, c2
黒：Kc5, Sa1, e6, Bb5, e4, e5
3 手詰め

U ボートの獲物 (2)

勿論我々の小さなUボートの指揮官たちは、ほどなくこう自問したことだろう。そもそも外国人たちを下船させることはまだ可能だろうか。敵の商船の乗組員が、服従拒否をした後にも彼らにしばしばはっきり示された寛大さに対して、卑劣な襲撃でお返しをすることが、一度ならずあったのである。バーク帆船の沈没後フォン・R海軍大尉は、高波で脱出した乗組員の救出のために、フランスの曳き舟を呼び寄せた。大急ぎで我々の方に舵を取りながら、フランス人はUボートの横腹にぶつけようとした。我々の操舵手の電光石火の行動と、ドイツのカービン銃からフランス人の舵のところにいる男に向けられた発射が、沈没が確実と思われた最後の瞬間にボートと乗員を救った。しかしフランス政府は曳き舟の指揮官を褒め称え、さながらまたイギリス政府は、ドイツのUボートの横腹にぶつけようとして、ねじまわしで我々の船の潜望鏡を攻撃したある汽船の船長を称えた。敵は故国の港でとっくに休息しているボートを破壊したと思っ込んで、それで潜水艦沈没の褒美として約束した額を支払ったのである。かくしてフランスとイギリスの政府は、我々のUボート指揮官にこう言明したも同然である。「我々の船員を救う試みはしないで、ネズミのように溺死させてくれ！」

だがなおドイツの温情と人間性は商船攻撃を続けた。イギリスの汽船リュウワーデンの乗組員が下船して、彼等の船が喫水線の箇所ですり抜けることによって漏水した時、ドイツの海軍大尉はイギリスのボートを、マース灯台船へ運ぶために曳航した。偶然ないしは好奇心のなせる業か、オランダの水先案内船をその灯台船に向かわせた。水先案内船はイギリス人たちを船に収容してこう警告した：「そんなことをしても仕方ないぞ！」。「どういたしまして、脱出を期待していました」、と船長は応えて帽子を指の間で当惑気味に回した。この「海の紳士たち」の人間も小粒になったもの。

U…は徐々に沈んで去ってゆくリュウワーデンへ戻って行った。オラン

夕船の船長はU…の後につき従い、質問に笑いながら肩をすくめてこう言った。「イギリス人たちは、彼らの船が沈むのを眺めさせて欲しいと頼んだ」と。彼らは我々の指揮官に同じ依頼をした。

翌朝U…に更にもっと幸運な風が吹いて、中立国の旗を掲げた大きな蒸気船に遭遇した。逃走を試みるという邪心を露にし、その逃走は1時間続いた。やがて大尉は船籍証明書を搜索する際ににやにや笑って言った。「イギリス向け、しかも明らかに軍隊向けの食料品だ！我々が使うことが出来る、そんなものをもう長いこと待っていた！」

つづく

日々新鮮なソーセージ

脂肪の少ないソーセージ、ブラウンシュヴァイクソーセージ、ウインナーソーセージ、及び焼きソーセージが日々新鮮。

O. ハンナスキー

.....

愛するアンナ！

インドの害虫を同封。それは君がひねり回すそのものだ。ひよっとするとそいつが僕の命を救ってくれたことで、そいつは君の心にもう一度育つかも知れない。これは誰かがもし耳を傾ければ、心の中にある感動を感じる出来事で、その者は密かに一人こうつぶやく。これは高貴な動物だった。その思い出を敬え。

愛するアンナ！何故なら、イギリスのセイロン肉桂棒野郎たちによる僕の捕獲のせいで、中隊に起こった汚点は、大佐殿にも聞こえていて、その大佐殿は僕たちが失敗を償う許可を与えてくれた。そこで僕たちはビスケット食らいたちのところへと出かけて行き、イギリスの国旗の色が茶と青であると考えるほどビスケット食らいたちが掃討されているのを眺めた。しかし僕たちはともかく新しい宿営地に移るとき、僕たち小隊はグルカ兵の塹壕に入ってしまう、そこでインドの害虫をもらってしまったのだ。ねえ、君。もし誰かにそれはヨーロッパの害虫と同じやつじゃないかと言われたなら、そいつは素人だよ。そのような間違った戦場の噂を世間に広める前に、先ずは一度害虫を試してみたらいい。というのもインドの害虫は、激しく血に飢えた戦場のハイエナだ。それで僕たちは中尉殿のところへ赴いて、インドの害虫を保有していると報告した。しかし中尉殿はインドの害虫などはもう沢山だと叫んで、僕たちにとっとと失せろと言った。で中尉殿はそう言いながら支柱で激しく身体をこすっていた。それで僕たちは衛生兵のところに行った。するとその衛生兵は、酸化水銀があればこれはたいしたことない、と言った。

愛するアンナ！しかし誰一人持ってはいなかった。すると君は多分クリスマスにマフを送って、水銀酸を送らなかったことに激しい後悔を感じるだろう。つまり君はマフを使って害虫は取り除けないからね。これは一つ

の過ちで、何故民衆はいつもマフだけしか贈らず、インドの害虫を退治するために酸化水銀を送らないのかと、いつか民衆の声に要求しなければならない。というのもこれは世間の憤激だ！しかし僕たちがともかく元気でも何とも途方にくれてぼんやり立っていると、衛生兵がラテン語の処方箋があると云った。普通の人間には予想もつかないが、この難しい処方箋を理解できる薬学を修めていなければならない。すると彼は処方箋どおりの薬を作り、その場をはなれて、それから僕たちにその薬を塗り込んだのだ。愛するアンナ！しかし僕はそれがラテン語の処方だとは信じない。そうではなくてそれは緑の石鹼のような匂いがした。ところで君に伝えなければいけないことは、これは何の役にも立たなかった。というのは、それがきっかけになってインドの害虫は激しく喜びのダンスをしたからね。それで僕は緑の石鹼は害虫の好物だとの見解に至った。それで僕たちの中の一人が、僕たちが害虫をラテン語の処方箋と比べるのは無意味だと語った。もし蟻塚があったならばその中へ、害虫で汚染された服を突っ込むことが出来る。というのも害虫の耐えられない民間処方で、それをおばあちゃんから受け継いだんだ、と彼は言った。そこで僕は蟻塚を発見するために出かけたが、そこには一つもなかった。その代わりに僕はフランス人の堆肥の山を見つけた。それを観て僕は、こいつも結局はやってくれるさ、と思った。

愛するアンナ！それは非常に激しい臭いがした。そして今や君にも時に害虫が、その胸の中に高貴な心情を有していることがはっきりと分かる出来事が起きた。その時には多くの者は激しく赤面してこう語らざるをえない。この単純な害虫のように振舞ったことは全然なかったと。というのは僕は深く考えこみながら堆肥の山へ沈みこんでいる間、この害虫が僕の脚を噛み、それで僕はその害虫を潰すために、脚に戦略的な動きをした。でも腰をかがめた状態に達するや否や、キラリと光るものが先ほどの僕の頭の位置をヒューと通り過ぎた。そいつはグルカ兵のナイフで、こっそり忍び寄ってきた不潔野郎が僕に投げつけたのだ。これでもう君は多分呑み込

めるだろう。もし僕がインドの害虫を所持していなかったら、そいつは僕をひき肉にしてしまっただろう。ねえ、君、どうやらそいつは今や上等兵と付き合うために、もっと用心することを学んだとみえ、最早ナイフを投げたりはしない。というのも僕はインド人煙突掃除人の七分丈コートをつかんで、そいつを懲らしめた。それでそいつはすところこう考えただろう。これはひど過ぎると。

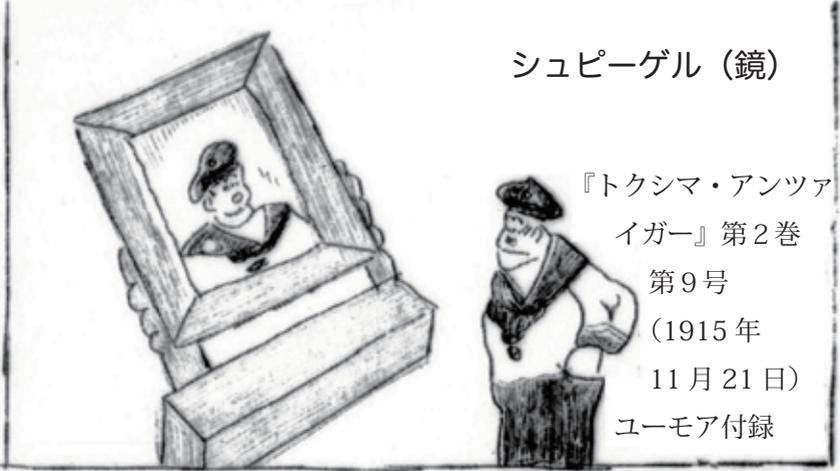
愛するアンナ！その後僕はそいつと堆肥の山へ戻り、自分に言い聞かせた。こいつはインドの害虫に関して実験をするため運命の合図なのだ。しかしその黒くて汚い野郎は、僕の意図した善意を十分に理解せずに、そいつはジャケット、汚い着物、並びにターバンを、インドの害虫を根絶するために堆肥の山に突っ込むのを拒んだ。すると君は多分、僕がこうした愚かさ加減に激しい怒りを感じたと思うかもしれない。というのもこの害虫は根絶やしにしなければならない。たとえ奴が10人の人を水から救い出したとしても。それで僕は強引に手を動かして、インドのアウグストを堆肥の山へ落して上に蓋をした。愛するアンナ！何故なら清潔さは生活の半分だ。その男は、まるで再び這い出て来たときには非常に激しい臭いがした。僕はそれで率直に打ち明けねばならないことは、堆肥の山だけではだめで、蟻をその中へ入れる必要があることだ。ひょっとすると僕はその時、激しい喜びに満たされていた。というのも僕はインドの害虫を殺すために、僕の軍服を堆肥の山に入れずに、グルカ人を入れたのだ。その後僕はそいつと我々の宿営に戻り、中尉殿はそいつを見るとこう語った。新鮮な輸入品が来たと。

愛するアンナ！今は君に一つの認識が生じただろう。僕がこの手紙を激しい絶望にかられて封緘することを。そのインドの害虫はものすごい繁殖能力をもっていて、それ故最後には夥しい数のしみがついたわけだ。僕には最早そいつらのどれが僕の命を救ったのか見つけ出すことが出来ない。君にはともかく一人で頭を振り絞って、そいつを考え出す時間が十分にある。

ともかく君に誠実な警告を伝えることは、酸化水銀を手元に置く前にはこの手紙を開けないことだ。心から愛する君に口づけを送る。

ハインリヒ・クネチュケ 一等兵

シュピーゲル (鏡)



『トクシマ・アンツァ
イガー』第2巻
第9号
(1915年
11月21日)
ユーモア付録

ペーター、羽を奪り取られた雄鶏



サッカーについて

サッカーはとても素敵だ
特に更に見ることが出来れば
いつもは必ずしも習慣ではないことの
多くのことがその時には眼を引く
僕はなるほど既に何年前
事実この競技に関わっていた
その時は様々に異なっていた
しかし当然だ、時が流れているのだから。
その当時はサッカーについて
落ち着いて熟慮しつつ試合をすることを
心得ていた者たちが励んでいた
そして紳士方は感動した
何よりも先ずそんな時は
口をつぐみ、皆が声を上げることはなかった
なるほど幾人かはここの試合でも
心得ていて、そのことを重んじている
しかし圧倒的多数は

大声を上げ、荒れ狂い、叫びそして笑う
カール、こっちへボールだ、おいお前…
お前ったら、もーぶつかり過ぎだ
ゴールを目がけて誰かが蹴る
そいつは全くもって注意をしない。
ボールが4メートル先ならば
ゴールはかなり確実だ
それは普段なら納得しやしない
ゴールキーパーのせいに違いない。
各自が自分勝手の試合で
ボールを定める方向は
一塊になって、押しのけ、ぶつかり、罵り、走るのは
三、四人ではない。
叫ぶのではなくて、呼び合っただけの戦いならば
それは見事だ。
これを学ぶことは難しくはない
優れた選手を連れてきさえすればいい
彼らは君たちに間違いなく喜んで
正しいプレーとプレーの核心を示してくれる

その時には永遠の紛争は
おそらくいつか無くなるだろう
誰かこのスポーツの面倒を見てくれば、
その人を決めることが正しいことになる
審判員をすることは容易ではない
それはすでにしばしば明らかになった
いまだにいろんな方たちが
審判員がしたことを非難している
それは良くない、私からも願う
何よりも前に汚れなき礼節を
各人が睦まじくあれ
そうすれば君たちの友人たちが後に続く。

